

# キャリア教育だより



群馬県立あさひ特別支援学校

発行：進路支援部

2025. 10. 27 号外⑧

## 『自己理解』と、進路・キャリア教育



実りの秋、進路選択の秋でもあります。「進路」や「キャリア教育」は『自己理解』から

と言うこともできます。つまり、自分の「好きなこと」や「得意なこと」を知って、周りの人に理解してもらうこと。

これは、自信を育み、『自分らしく生きる』ための確かな力となります。また、「不得意なこと」に対して、どんな支援や工夫が必要かを本人と周りが共有することも大切です。これにより、生活や働く上での「しづらさ」

「生きづらさ」の解消にもつながります。本人の「できること」と「必要な支援」の両面から、お子様の『自己理解』を深めていけるよう、学校と家庭、日頃関わる支援者とも連携・協力していけたらと思います。



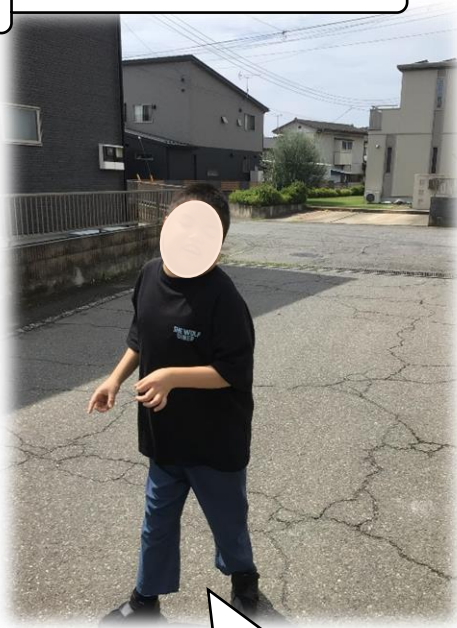
## ☆後期体験を振り返って ～高3・高2の体験学習と就業体験～

高等部では、9月から10月に後期の体験を実施しました。高3生においては卒後の利用をにらんで体験先事業所で「利用できそうなのか？ 曜日や回数は？ 事業所による送迎は？」といった具体的な見通しを確認するための重要な機会です。良い返答なら問題ないのですが、「空きがなく、利用者の動きがないと利用は難しい…」と厳しい現実を受け入れざるを得ない場面もあります。また逆に、この段階で良い返答であっても、お住まい市町村の障害福祉課に申し込んだ後、12月以降の正式な回答が変わってしまうことも稀にあります。なぜなら、県内特別支援学校高3生が一齐に申し込みますし、緊急性が高い場合は既卒の方が入り込んでしまうこともあるからです。『蓋を開けてみないと分からない』というのが正直なところです。

高2生においては、6月について今回の体験をとおして『成功体験』を積み上げることができてきています。体験先事業所が合っているかどうかを確かめる機会にもなっています。一般就労希望の生徒においては『テレワーク実習（リモートワーク）』に取り組んだ人もいます。前期は、通勤型の就業体験でしたが、自分に合う就労の形を検討するために、今回、学校において、2事業所（東京・前橋）でのリモートワークに挑戦することができました。初めての体験でしたが、良い方々に恵まれて『達成感』を得ることができました。

生徒の中には一部、年明けに臨時の体験に取り組む生徒もありますが、高等部では、前期6月と後期9月の体験に、大方の2・3年生が取り組み、高等部卒業後の進路に向けてチャレンジをしています。

## 体験学習（高3）



「オペラ」での屋外活動  
～散歩～

「ノン」での屋内活動  
～音楽活動～

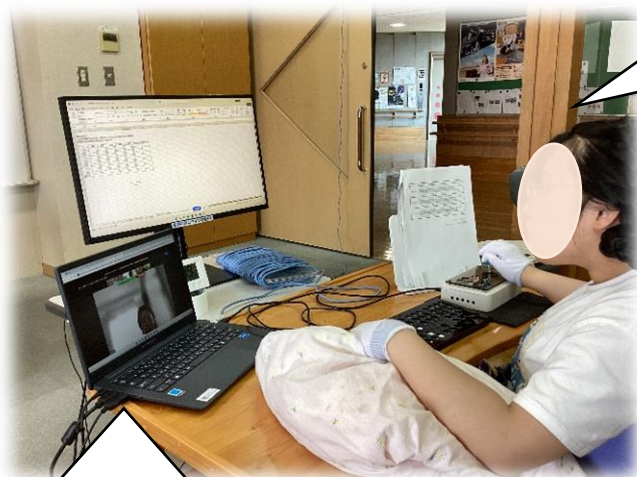


「すばる」での  
屋外活動  
～好きな飲み物の  
買い物～



※「すばる」は、生活介護マーズが多機能型として隣地に開所した生活介護  
※「ノン」「すばる」は、医ケアにも対応できる生活介護です。

## 就業体験（高2）～テレワーク実習～



ノート PC 画面（下）で担当者の指示を受けながら、  
デスクトップ画面（上）で作業（Excel）を行っている  
ところです。

「なりたい姿を考える」「自分のことを伝える」などの、  
6つのプログラムを自分で選んで取り組みました。

右手で支援機器【らくらくマウスⅢ（ジョイスティック  
ク型）】を操作しながら、表計算等を行いました。

←左上画像はテレワーク①（株）リクルートスタッフィング クラウド  
↓右下画像はテレワーク②（株）物流サービス  
テレワーク②では、実際の社内業務に携わらせて  
いただきました（日報の転記、走行距離の確認等）

